

活動名 金沢ハラル対応店マッププロジェクト（ハマップ）

団体名 KHMS (Kanazawa Halalfood Map Students)

代表者名 麻田佳葉

はじめに（背景・目的・目標）

<背景>

金沢市を訪れる外国人ムスリム観光客は近年、増えているが、ハラル対応をしている店舗（ハラル対応店）は極めて少ない。加えて、ハラル対応店に関する情報が、外国人ムスリム観光客に周知されているとは言い難い状況にある。

<目的>

本プロジェクトの目的は、ハラル対応店を掲載した英語の地図の作成、配布を通して、金沢市を訪れる外国人ムスリム観光客の利便性の向上を図ること、外国人ムスリム観光客の増加に寄与することの2点である。

<目標>

本プロジェクトの目標は以下の通りである。

- ①英語でハラル対応店の地図を作成する。なお地図には、今後の改訂を踏まえて評価アンケート（QRコード）を付ける。
- ②作成した地図を多くの外国人ムスリム観光客に利用してもらおう。具体的には以下の方法を用いる。
 - ・Twitter、Instagramなどのソーシャルメディアを用いて地図情報を発信する。
 - ・金沢市内の観光関係機関（行政、旅行会社、宿泊施設、観光施設等）のウェブサイトへ地図を載せてもらう。
 - ・上記機関に地図を設置させてもらう。

活動内容

8月（採択前）

- ・定例ミーティング
- ・金沢モスクを訪問してムスリムと意見交換
- ・ハラルを含むイスラームについての勉強会

9月

- ・定例ミーティング
- ・宿泊施設・インフォメーションセンターへの問い合わせ
- ・金沢市内の店舗との交渉、ならびに掲載許可を得た店舗へのインタビュー

10月

- ・定例ミーティング
- ・石川ムスリム協会の松井氏と金沢市内の礼拝場所を調査
- ・金沢市内の店舗との交渉、ならびに掲載許可を得

た店舗へのインタビュー

11月

- ・定例ミーティング
- ・金沢市内の店舗との交渉、ならびに掲載許可を得た店舗へのインタビュー

12月

- ・定例ミーティング
- ・地図のデザインとピクトグラムの考案
- ・高山視察
- ・金沢市内の店舗との交渉、ならびに掲載許可を得た店舗へのインタビュー
- ・兼六園観光協会にインタビュー

1月

- ・定例ミーティング
- ・地図に掲載する店舗の基本情報の取りまとめ
- ・地図のデザインとピクトグラムの考案

2月

- ・定例ミーティング
- ・地図完成
- ・金沢市内の観光施設等に地図の設置を依頼
- ・地図の配布

成果、結果の考察

地図配布の直後から、地図を設置した観光関係機関からの地図の追加依頼や、宿泊施設等からの地図の新規設置依頼があった。また本プロジェクトは、新聞（北陸中日新聞、北國新聞）やテレビ（石川テレビ）といったメディアで取り上げられた。加えて、大学コンソーシアム石川「学生による海外誘客チャレンジ事業」の活動報告会で、優秀活動賞とオーディエンス賞を受賞した。以上から本プロジェクトは、社会的ニーズに対応した高い成果をあげることができたと言える。

今後の課題、展望

今後の主な課題としては以下のものがあげられる。

- ・地図に掲載する店舗数を増やす。
- ・地図に礼拝可能な場所を載せる。
- ・地図評価アンケートの結果を分析し適宜、地図に修正を加える。
- ・来年度以降もプロジェクトを継続する。このために、積極的な勧誘を通じたメンバーの確保や Seiryō Jump Project への申請等を行う。今後の展望は以下の通りである。
- ・地図のバージョンアップを行い、外国人ムスリム観光客の利便性をより一層、向上させる。

活動名 金沢ハラール対応店マッププロジェクト（ハマップ）

団体名 KHMS (Kanazawa Halalfood Map Students)

代表者名 麻田佳葉

- ・地図の知名度アップを図るなど活動を継続して行うことで、観光関連機関の関係者をはじめとする市民のイスラームやムスリムに対する理解を深める。



金城楼にてムスリム対応に関するインタビューを実施。北陸新幹線開通後は、ムスリム観光客の割合が4割近く増加し、ホテルなどの紹介で食事に来るムスリムも増えたという。豚肉は一切使わず、アルコールや礼拝場所についてもできる限り対応している。



ハラール・ラーメンを提供する高山市のラーメン店を訪問。訪問時には数組のムスリム観光客が来店していた。店内には礼拝スペースもあり、インドネシアから来たムスリム観光客に礼拝の様子を見せて頂いた。高山市は官民連携でハラール対応を進めており、ムスリムフレンドリーマップも既に作成されている。



作成したハマップのサンプル。高桑美術印刷さんをはじめ多くの方々のご協力で満足いくマップを作成することができた。マップに付けたQRコードのアンケートの結果を、マップの改善をはじめとする今後の活動に活かしたい。